

メチル水銀汚染源から20km圏外の 八代海周辺地域における 水俣病症候

重岡伸一*、高岡滋**、藤野紘*、川上義信*、積豪英***、大石史弘****、
光永隆丸*****、橋本和子****、尾田新吾****、牟田喜雄*****、
板井八重子*****

*水俣協立病院 内科、**神経内科リハビリテーション協立クリニック、***天草ふれあいクリニック、
****くわみず病院 内科、*****くわみず病院 小児科、*****平和クリニック、*****くすのきクリニック

【目的】

メチル水銀による健康影響は八代海沿岸地域に広く広がっているが、その具体的な状況は明らかになっていない。

これまでの「公害健康被害補償法」（公健法）や「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」（特措法）での指定地域外の沿岸部や、魚介類が行商ルートでしか入っていかなかったと考えられる山間部の住民の健康障害の有無と程度について、検診調査結果を検討した。

【方法】

天草諸島の海岸部と葦北郡芦北町の山間部で 2010～2011 年に行われた水俣病検診の結果を比較・検討した。



【汚染地域検診（1日データ）】

(A-1) 天草市（2010年12月）：34名、69.4±11.9歳

公健法・特措法の指定地域内居住歴あり11名、なし23名

(A-2) 天草市（2011年9月）：27名（年齢調整の為、55歳未満の4名除外）、69.1±6.9歳

公健法・特措法の指定地域内居住歴なし27名

(B) 葦北郡芦北町山間部（2011年10月）：31名・70.5±10.3歳

公健法指定地域内で、特措法指定地域外居住者

【コントロール地域検診】

(C) 福岡市・熊本市・鹿児島市近郊在住の病院職員・住民：77名・69.7±5.3歳

（2006年1-2月、2007年10月-2008年3月）

【検診項目】

(1) 自覚症状

(2) 神経徴候

(3) 定量的感覚障害検査

結果比較に用いた2009年
不知火海沿岸検診の
対象者数と平均年齢

	人数	平均年齢
水俣葦北	232	64.2±12.7
天草八代	166	65.0±10.7
出水阿久根	238	63.6±10.6
他地域	171	58.8±9.4
指定地域	108	64.9±10.0
S44年以降	59	47.3±11.6

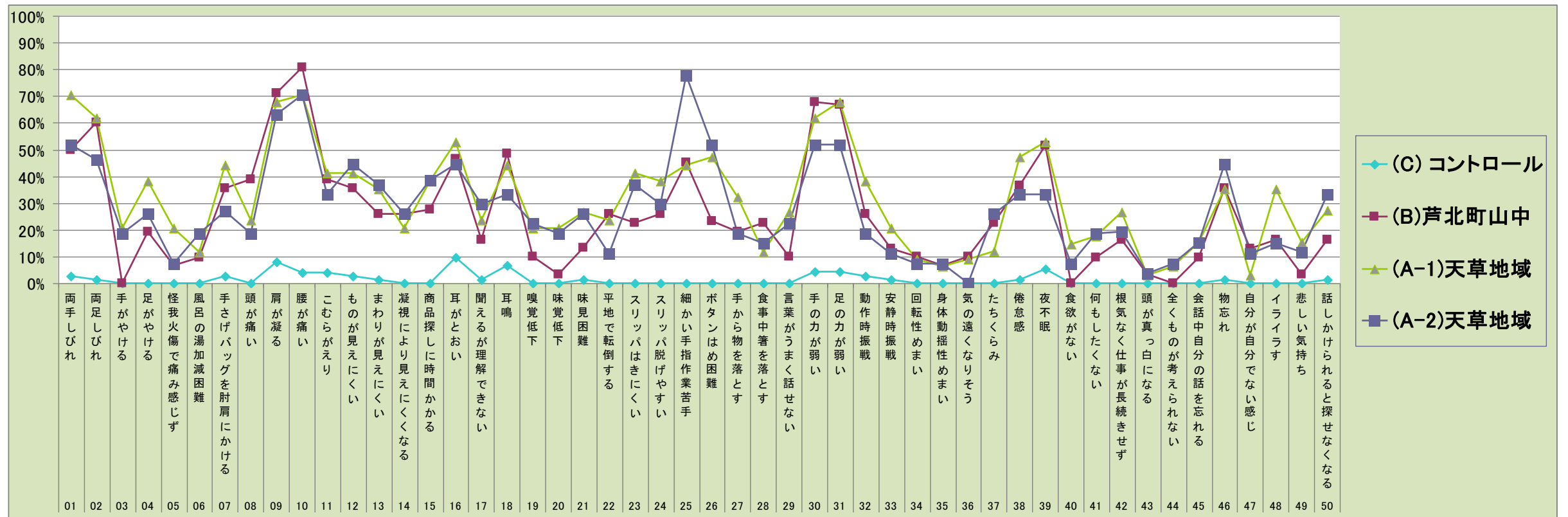
【結果】

有自覚症状割合は、全体として(A-1) ≒ (A-2) > (B) ≫ (C)であった。

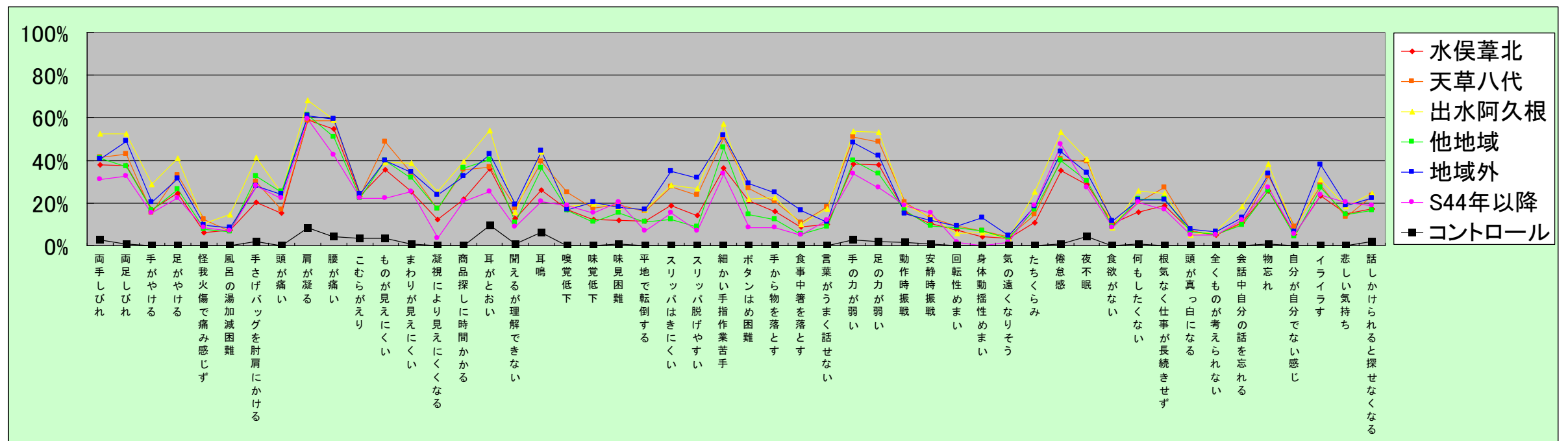
神経徴候・定量的感覚異常出現率は、全体として(A-1) ≒ (A-2) ≧ (B) ≫ (C)であった。

1. 自覚症状 a. 「いつも」ある症状

今回の結果

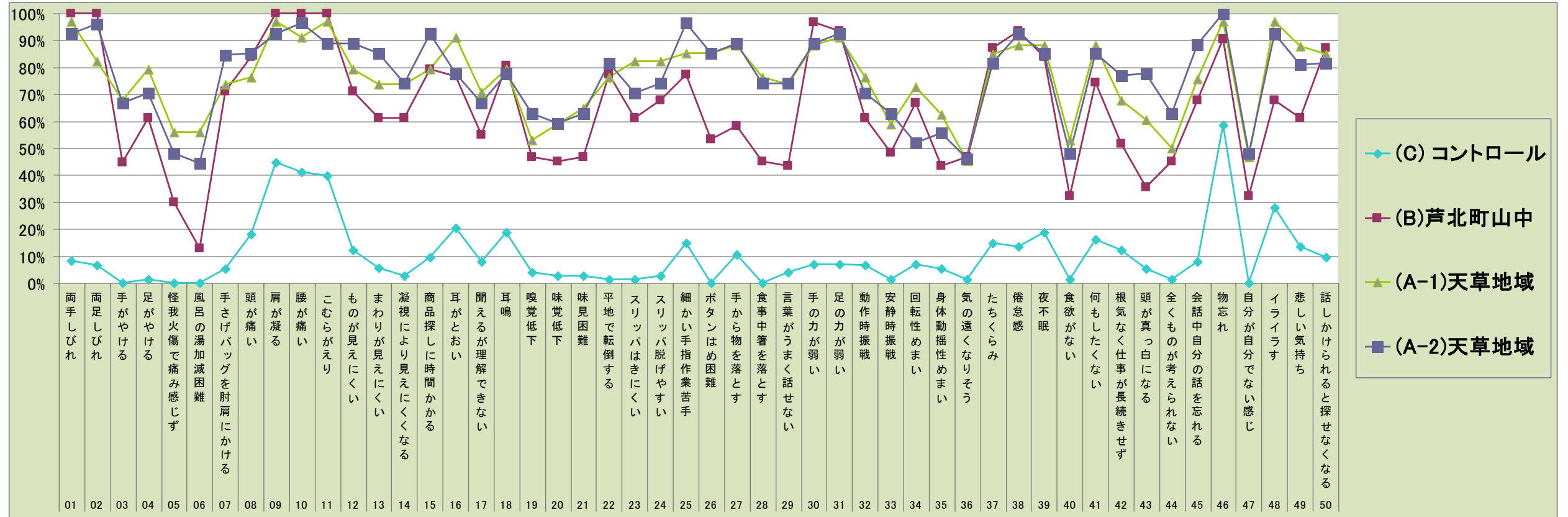


2009年検診

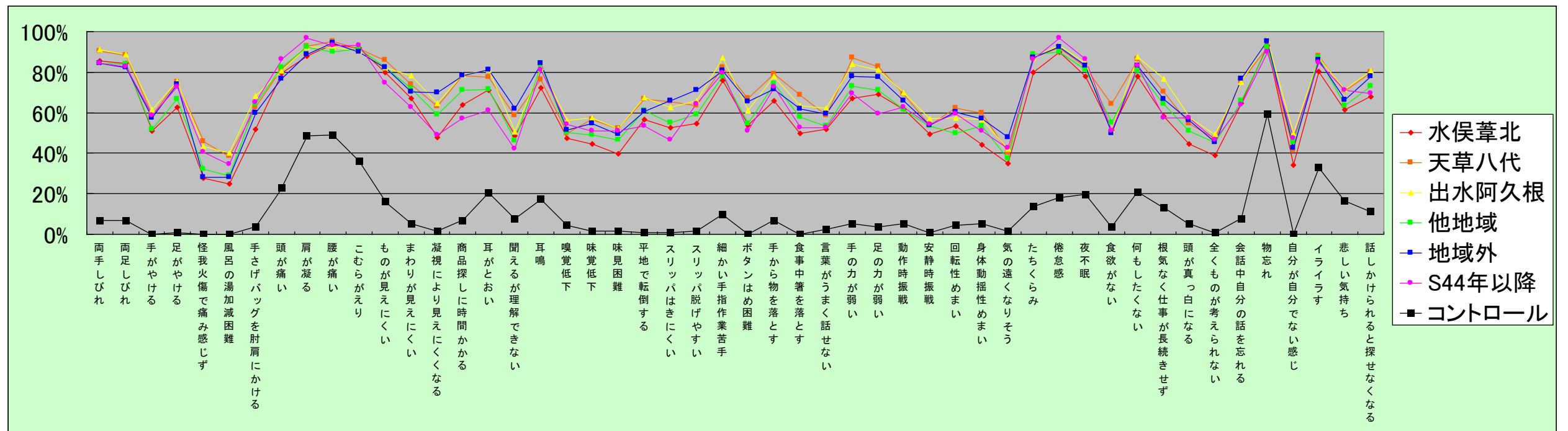


b. 「いつも」または「時々」ある症状

今回の結果

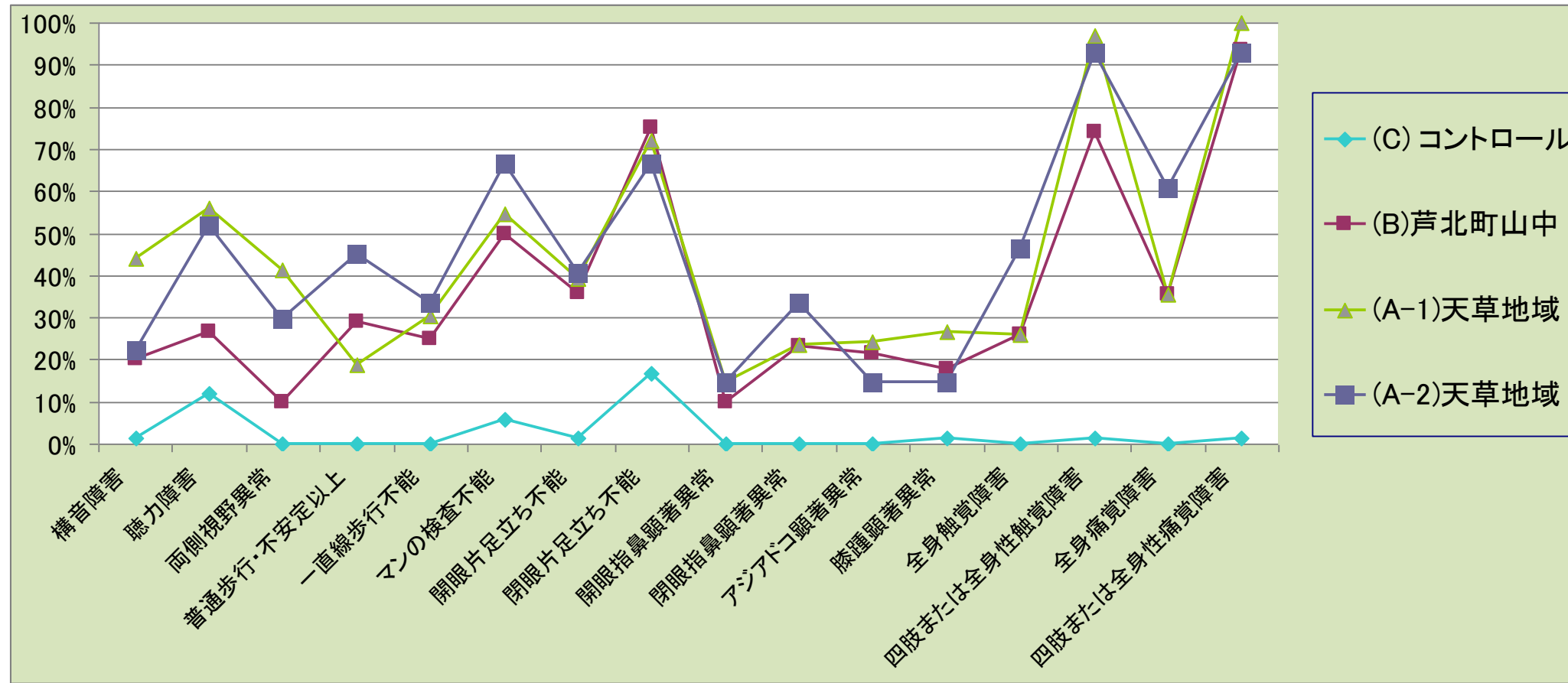


2009 年検診



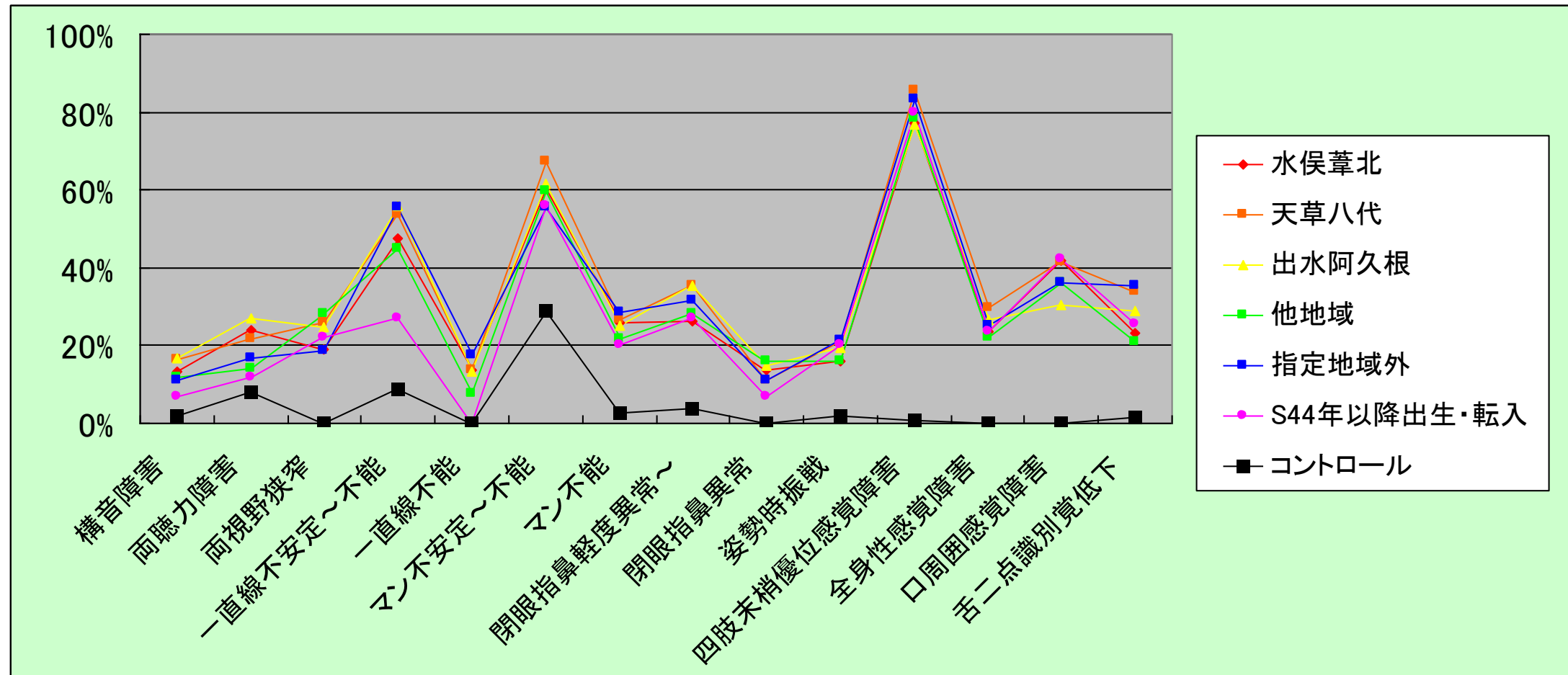
2. 神経所見

今回の結果



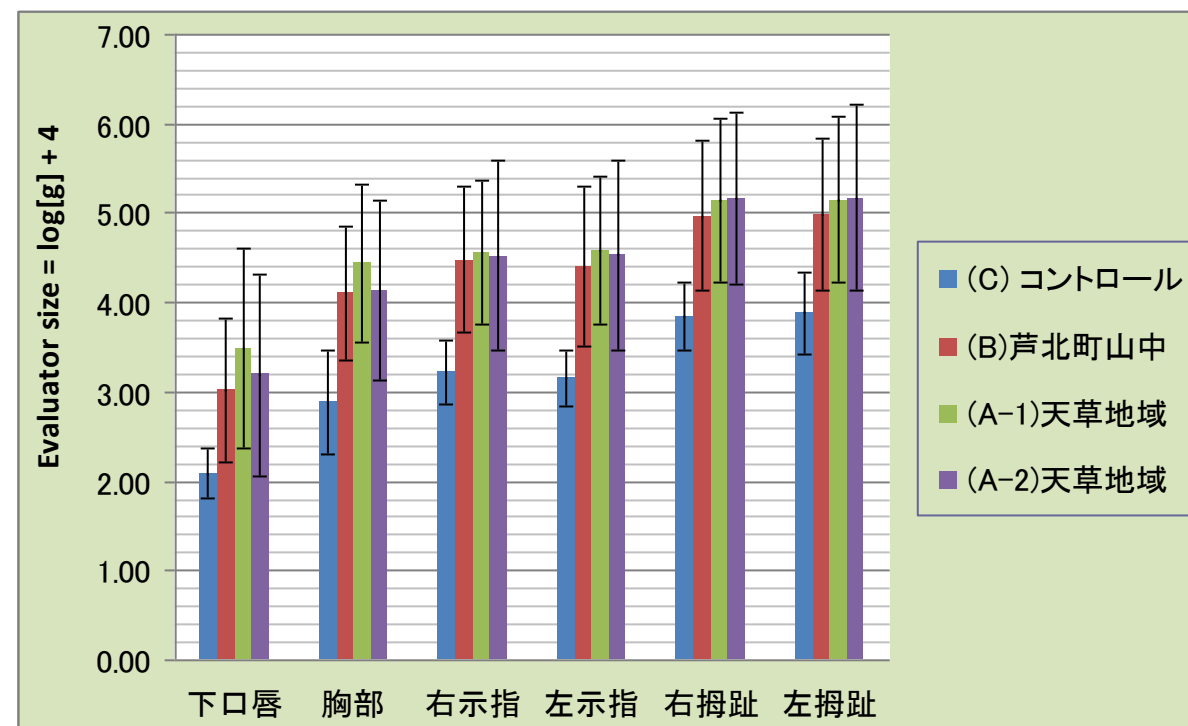
2009 年検診

(上記と検査項目が
やや異なる)

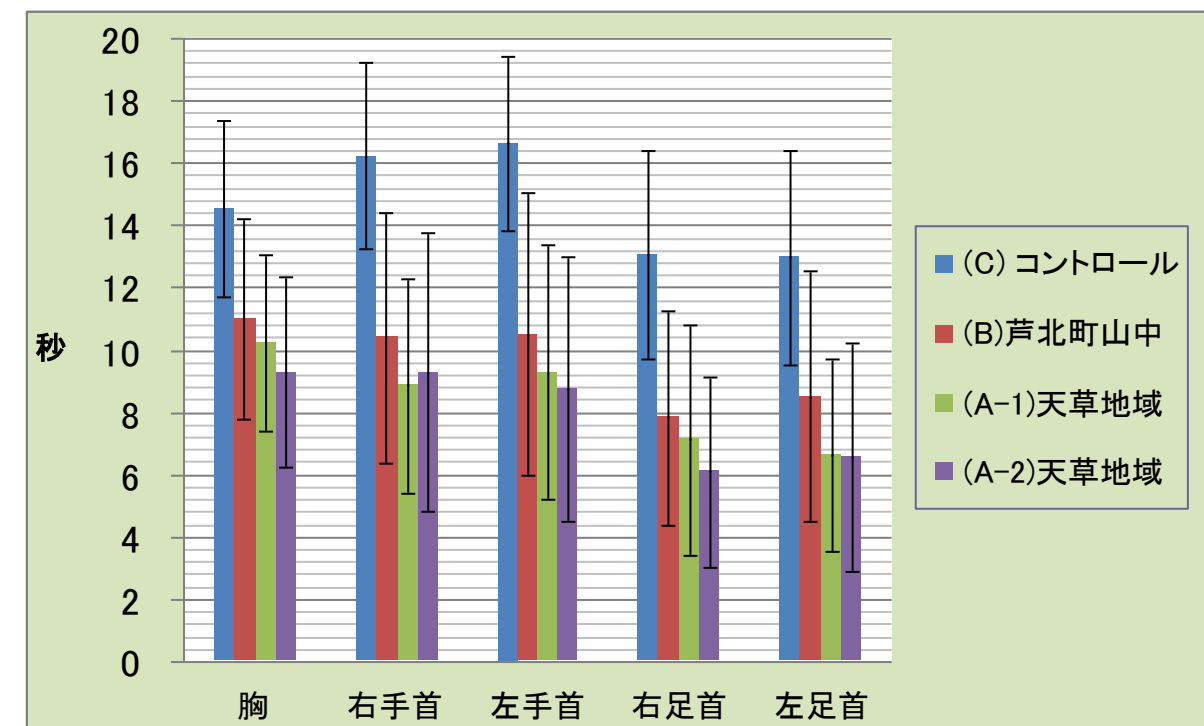


3. 定量的感覚検査

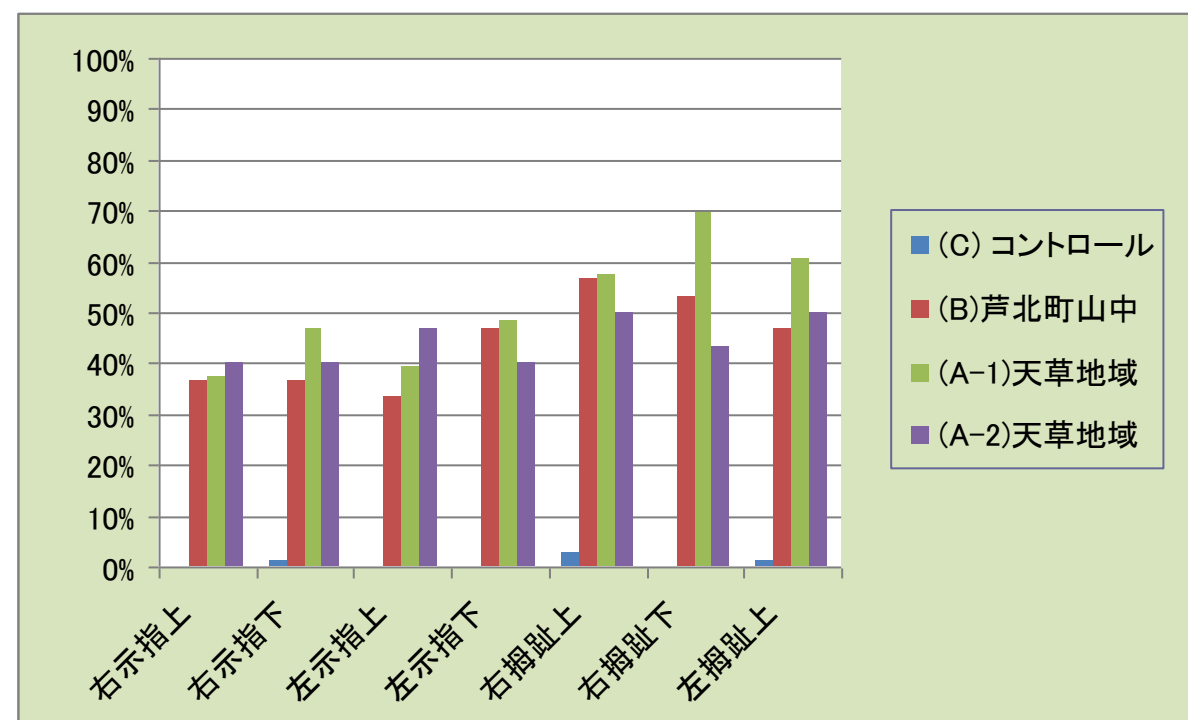
a. Von Frey の触毛による微小触知感覚



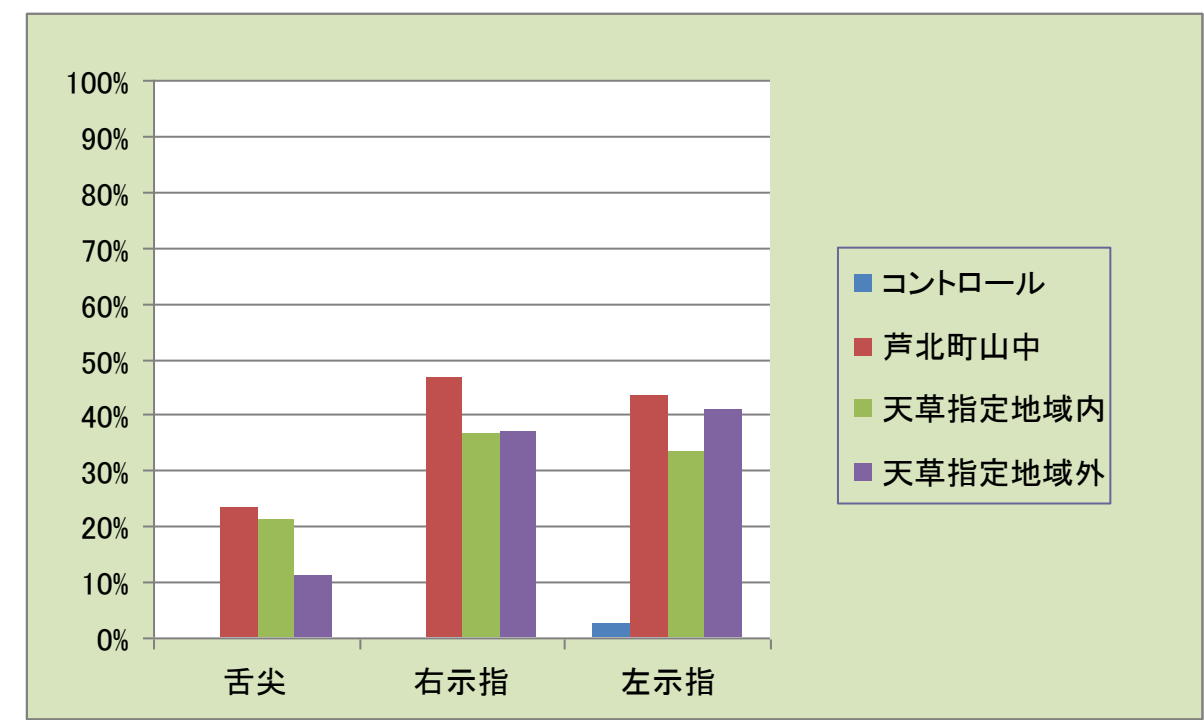
b. 音叉による振動覚



c. 指趾 5mm の上下移動判別不能の割合



d. 二点識別覚閾値が 7mm より大の割合



【考察】

メチル水銀汚染源から比較的離れた地域であっても、住民の自覚症状および神経症候、定量的感覚検査は、あきらかな異常を示した。天草地域でも指定地域外であってもほぼ神経症候の出現率の差はなく、山間部でもやや症候の頻度が低い傾向はあったものの、ほぼ同様の異常を認めた。2009年9月の不知火海沿岸検診の結果と比較しても、指定地域内外でほぼ同様の自覚症状、神経所見を認めている。

横断研究と異なり、選択バイアスや交絡要因は存在するものの、遠隔地域（天草 vs. 芦北）間の、比較的特異的な症候を含むデータの類似性は、メチル水銀汚染による健康被害が、公健法や水俣病特措法の枠組みを超えて広がっていることを意味する。また、被害地域での検診希望者を募っての検診では、数10人規模であっても、1000人規模の検診と類似の傾向が出現することは興味深い結果であり、より遠隔地における神経症候の状況がどのようなになっているのかという点は興味深い今後の課題である。